
3月の雨 / 土ミツ

弥子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

3月の雨 / 土ミツ

【Nコード】

N3599K

【作者名】

弥子

【あらすじ】

雨の中、土方はしぶ濡れのミツバに出会った… -

（前書き）

お久しぶりです。

そして、初めまして。

弥子です^^

今回、沖神はちょこつとお休みして、

土ミツ（ポニーテール時代）に挑戦してみました。

とっても雑な仕上がりなので注意です><

いつものように道場に向かうため、家を出た。

-
…雨か…

立てかけてあった傘に手をのばし、勢いよくそれを開く。

打ちつける雨の音に耳を傾けながら、

少し早歩きで、いつもの道をたどった。

3月の雨は、まだ冷たい。

吐く息も、まだ白かった。

「…寒…」

自然と体も縮こまっている事に、自分でも気づかず、

ただひたすら、足を動かしているだけだった。

『…十四郎さん…?』

どれくらい歩いただろう。

自分の足元ばかり見て歩いたものだから、

ここがどこなのか、声の主が誰なのか、

顔を上げた今、はっきり分かった。

同時に、胸の鼓動が大きくなった。

「…あ。」

目の前に立っていた彼女は、いつもの優しい笑みを浮かべている。

ただ…傘もささずに、ずぶ濡れだった。

『あ、ごめんなさい。こんな格好で。びっくりしちゃったでしょう？』

俺は、彼女の頭の上に傘をかぶせた。

「…傘は？」

『…そーちゃんを道場に送っていった帰りに、突然降ってきちゃって…』

「阿保」

『ごめんなさい』

俺は、持っていた傘を彼女に託して、再び前に足を進めた。

「それやるから…」

『え、あ…十四郎さん!』

女一人雨に濡らすわけにもいかないし、

これ以上一緒にいたら、心臓がもたない気がした。

…コレくらい、してやりたかった。

『十四郎さん!! 待って、』

彼女はそう言って、

小さな掌で、俺の大きな掌を捕まえた。

その刹那、体中に熱が走った。

冷たい雨とは比べ物にならないくらい、

熱いものが…。

『風邪、引きますよ!』

そういつて、ついさっき渡したばかりの傘を押し付けられた。

「…別に、俺はいい」

『よくないです!ちゃんとさして行っして下さい』

「風邪くらいどオって事ねえ」

『駄目です!みんな心配するじゃない。』

「…心配させる奴もいねえし」

『じじじいますー!』

「え!？」

『あ!?!』

「『……／／／』」

沈黙が続いた。

お互い下を向いたまま、次に発す言葉を搜していた。

雨音が、その沈黙と雨に濡れた二人を包み込む。

『…じゃあ』

先に口を開いたのは、彼女の方だった。

『…一緒に。』

微笑みながら顔を上げて、彼女は言った。

「あ、ああ……」

その笑顔がまぶしくて、そして、何だか照れくさくて、

また俺は、無愛想な返事しか出来なかった。

『……家まで、送ってくれませんか？』

「ああ……」

3月の雨は冷たくて、寂しくて…。

だけど、ほんの少しだけ…春の香りがした。

（後書き）

土ミツは青い春な感じがすごく好きです。

それをきちんと表現できればいいのですが……

土ミツ書けて楽しかったです^^

目を通してくださった方々、ありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3599k/>

3月の雨 /土ミツ

2011年1月13日16時44分発行